スマートフォンとカメラを 接続する

α7IVではBluetoothを利用したペアリングで、カメラで撮影した画像を簡単にスマートフォンやタブレット

へ送ったり、リモート撮影したりできる。使いこなせば撮影の幅が広がるだろう。

Imaging Edge Mobileをインストールする



まずはデバイスにImaging Edge Mobileをインストールしよう。iOS版 とAndroid版で少しずつ勝手が違うので、自分が使っているのはどちら なのかを確認してから作業に入ろう。

iOSでインストール



iOS版の場合は、 App Storeを開いて [Imaging Edge Mobile」と検索する とアプリインストー ル画面が出てくる。



検索画面からア プリを見つけたら、 「入手」をタップ。





Androidでインストール



Android版の場合は、 Google Playを開い て [Imaging Edge Mobile」と検索する とアプリインストー ル画面が出てくる。



検索画面からア プリを見つけたら、 「インストール」 をタップ。





カメラ内の画像をスマートフォンに転送する

Imaging Edge Mobileがインストールできたら、デバイスとカメラを接続しての操作 が可能になる。画像の転送はもちろん、リモートでシャッターを切ったり、SNSへ のアップロードも簡単だ。ここではiOS版での操作を説明する。



▶ (再生) ボタン を押して転送した い画像を表示する。



七(スマートフォ ン転送)ボタンを 押す。



転送する画像の選 択方法を選ぶ。こ こでは、[この画 像] で選んだ1枚 の写真を転送する。



[スマートフォンに 転送する〕を選ぶ。



続けて表示される 画面で「確認」を 選択すると、Blue toothを用いたペア リングが開始され



スマートフォン側でアプ リを開き、最初に表示 される画面の上部にあ る 「カメラ接続/登録] をタップする。



ペアリングを行うカメ ラの名前が出てくるの でタップで選択し、確 認のダイアログが出たら 「ペアリング」 をタップ。



カメラ側でもペア リング確認の画面 が表示されるので、 [確認]を選択する。

露出をコントロールする

α7Ⅳには5つの測光モードが搭載されており、撮影イメージや状況によって使い分けることで最適な露出 を得られる。露出についてしっかり確認してから撮影にのぞもう。

Mモードで露出を操る

M(マニュアル露出)モードでは撮影者が絞り値、シャッター スピード、ISO感度をはじめとした全ての機能を設定するため、 露出の基本を知るのに向いている。 α7IVの場合、モードダ イヤルをMに合わせてから、前ダイヤルで絞り値、後ダイヤル でシャッタースピードを調整していく。



■バルブ撮影で長時間露光をする

後ダイヤルLを回してシャッタースピードの設定を「BULB」にすると、シャッターボタンを押し ている間シャッターが開いた状態を保つことができる。夜景など、長時間露光を活かした撮影 に向いているだろう。手ブレ防止に、三脚を使用してスマホでのリモート撮影がおすすめだ。



モードダイヤルをM(マ ニュアル露出)にして から、後ダイヤルLを左 に回し続けるとシャッ タースピードの表示が [BULB] になる。



ONE POINT

露出補正土3以上を設定する

露出補正では±5EVまで数値を調整 することができるが、撮影時に画面内 で確認ができるのは±3EVまでだ。範 囲外まで設定した場合、撮影時には 明るさは変化しないが、記録された画 像には反映される。



[MENU] から[露出/色] >[露 出補正] > 「露出補正」を 選択する。



任意の数値に補正値を設定

測光モードを使い分ける

測光とは、適正露出を得るためにカメラが被写体の明るさを測ること。センサーに 受けた光のどの部分で測るかによって5つのモードがあり、それぞれの特徴を知って 使い分ければ、よりイメージに近い撮影を行うことができる。



Fnボタンを押して「測光モード」を選択 する。



仟意の測光モードを選択する。

マルチ



初期設定のモード。画面をブロックの ように分割し、それぞれの情報を組み 合わせて最終的に適切な露出を判断 する。

中央重点



画面中央付近の明るさから露出を判 断する。日の丸構図など被写体が真 ん中にある場合、印象的な演出をす ることができる。

スポット



画面中央のサークルで任意の測光ポ イントを設定する。逆光などの明暗が 大きいシーンでも、狙った場所に露出 を合わせやすい。

画面全体平均



画面全体を平均して 測光する。構図や 被写体の位置が変 化しても露出が左右 されにくい。

ハイライト重点



画面のハイライト部 分に合わせて露出を 決定する。被写体 全体がスポットライ トを浴びているなど、 白とびを防ぎたいと きに有効。

スポット測光位置をフォーカスエリアに連動させる

「フォーカスエリア」が「スポット」「拡張スポット」「トラッキング: スポット] [トラッキング:拡張スポット] のいずれかの場合、[スポッ ト位置連動〕機能を使えば、ピントを合わせたい位置にフォーカ スエリアを設定するだけで、同じ位置でスポット測光をして適正 露出を決めてくれる。



MF時自動ピント拡大を活用する

[MF時自動ピント拡大] を使えば、MF撮影やDMF撮影をするときに、画像を自 動で拡大表示してピントを合わせやすくしてくれる。フォーカスリングを回すだけで 拡大され、細部まで厳密なピント合わせをしたいときに便利だ。



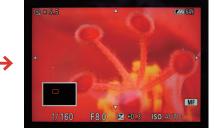
[MENU] から[フォーカス] >[ピント補助] >[MF 時自動ピント拡大〕を選択する。



「入] を選ぶ。



MFもしくはDMFで被写体を写し、フォーカスリン グを回す。



被写体が拡大されるので、ピント合わせを行う。 コントロールホイールの中央(●) ボタンを押せば、 さらに拡大することが可能だ。

ONE POINT

拡大表示する時間を設定できる

ピント拡大の時間は「MENU」から「フォーカス] >「ピント補助] > 「ピント拡大時間」で設定で きる。じっくりピント合わせをしたいときは「無制 限〕を選ぶといいだろう。



ピーキング表示を活用する

MFでのピント合わせに自信がないときは、ピーキングを活用するとよい。ピントが 合っている部分の輪郭を強調して表示してくれる。動画の場合には、AF撮影時にピー キング表示を使用することができる。



[MENU] $boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{boldsymbol{$ ング表示〕を選択する。



ピーキングの度合いを設定するために、 [ピーキングレベル] を選択する。



任意のレベルを選択する。[高] はより 厳密に、「低」は広範囲に表示する。



強調表示の色を、[フォーカス] > [ピー キング表示]>[ピーキング色]から任 意の色を選択する。



[フォーカス] >[ピーキング表示] >[ピー キング表示]で[入]を選択する。



MF時にピーキング表示されるように なった。フォーカスリングを回すと、ピ ントが合っている部分が強調表示される。

ONE POINT

細かなピント合わせに便利なDMF

ダイレクトマニュアルフォーカス (DMF) は、AFでピント を合わせたあとに手動で微調整ができる機能。最初から MFでピント合わせをするよりも素早くピント合わせができ るため、MFに慣れないうちやマクロ撮影のときに便利だ。 ピーキングも適用される。



カスタム機能で 手になじむカメラにする

各種キーを自分好みにカスタマイズすれば、操作性や快適性がグッと上がる。被写体に合わせて変え るのがおすすめだ。ここでは3つのパターンを紹介する。

カスタムキーを設定する

カスタムキーは特定のボタンやダイヤルに希望の機能を割り当てられる機能。機能 に[押す間] とあるものは、そのボタンを押している間有効になり、[再押し] とあ るものは、そのボタンを押すたびに設定した機能が入れ替わる仕様だ。



[MENU] から[セットアップ] >[操 作カスタマイズ] > 「カスタムキー /ダイヤル設定]を選択する。



コントロールホイールで機能を割り 当てるボタンを選ぶ。



割り当てたい機能を選択する。



動く被写体におすすめ

被写体に応じて、基本で使うフォーカスエリア [ワイド] とフォーカスエリア登録し た「トラッキング:拡張スポット」を中央(●) ボタンで切り替えて使う。また、撮 影パターンに応じて事前に「MENU」から「撮影」>「撮影モード」>「カスタム 撮影設定登録〕で撮影モードやシャッタースピード、フォーカスエリアなどを登録し ておき、AELボタンとAF-ONボタンに「押す間カスタム設定呼出1~3]を割り当て、 瞬時の撮影設定切り替えに使う。



撮影モード: シャッタースピード優先 絞り値: F5.6 シャッター速度: 1/1000秒 露出補正: ±0 ISO感度: AUTO (250) ホワイトバランス:太陽光 焦点距離:300mm



前ダイヤル Tv[M]/Av

MOVIE (動画) ボタン

フォーカスモード





フォーカス ホールドボタン 押す間カスタム 設定呼出1~3

おすすめの 広角ズームレンズ

超広角域から広角域までを1本にまとめたレンズ。超広角域は強烈なパースペクティブや遠近感を強調

した撮影が楽しめて、広角域では歪みの少ない自然な描写が得られ風景やスナップで活躍できる。

FE PZ 16-35mm F4 G



12群13枚
16-35mm
107° -63°
F22
7枚
0.28m (W) -0.24m (T)
0.23倍
72mm
なし(ボディ側対応)
80.5mm x 88.1mm
約353g

超広角16mmから35mmまで開放F値4.0を実現した小型、軽量なパワーズームレンズ。画面 周縁までシャープな描写性能と高速で静粛なAF性能に加え、近接撮影能力にも優れている。 広がりあるダイナミックな表現から柔らかなボケのある作品作りまでできる。パワーズーム(電 動ズーム)は動作が滑らかで、映像撮影にも優れた操作性を備えている。



撮影モード: 絞り優先 絞り値: F8.0 シャッター速度: 1/500秒 露出補正: ±0 ISO感度: AUTO (100) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離: 16mm

透き通った海に 漂う小舟を 超広角域で撮る

遠浅の海に漂う小舟。こ のようなシーンは、小舟 を画面の中央ではなく、 左右のどちらかにずらし て配置することがポイン ト。空間が生まれること で、透き通った海と青い 空が引き立ち、遠近感と ダイナミックな広がりを 感じさせることができる。

NDフィルターを使って、海、空の雲の動きを表現

日没の海岸線を長時間露光で撮影。雲は速く流れるように、波は静止したような幻想的な世 界が撮れる。NDフィルターを2枚使用して10段分の減光を行った。 超広角域はレンズサイズの フィルターを2枚重ねると画面周縁がケラれるので、72mmと77mmを使用した。



撮影モード: 絞り優先 絞り値:F16 シャッター速度:30秒 露出補正: +1.0 ISO感度:50 ホワイトバランス:太陽光 焦点距離:16mm

自然の神秘をダイナミックに撮る

海岸の露出した岩が、波や風で削られて 複雑な模様を作り出している。最短撮影 距離28cm(広角端)で画面手前からピ ントが合うので、ヌケのよいシャープな描 写で遠近感を強調でき、迫力ある生命感 がみなぎる写真にできた。超広角特有の 歪みがないので、水平線もまっすぐ描写さ れている。



撮影モード: 絞り優先 絞り値: F8.0 シャッター速度:1/400秒 露出補正:-0.3 ISO感度: AUTO (100) ホワイトバランス:太陽光 焦点距離:16mm

リアルタイムトラッキング で動く被写体を捉える

AIを活用したリアルタイムトラッキングは、色、模様、被写体との距離からなる空間情報をもとに、被 写体を認識して自動追尾してくれる。動物や乗り物といった形がはっきりしている被写体の撮影に便利。



元気よく走って来る 愛犬を撮る

数十メートル先からカメラに まっすぐ向かってくる犬を連 続撮影。ここではリアルタイ ム瞳AFの検出対象を「動物】 にして、フォーカスエリアは 素早く顔検出できるように. 測距範囲が少し狭い「トラッ キング:ゾーン] を選択。も し、犬が不規則な動きをし て測距範囲から外れてしまっ ても、一度、顔/瞳を検出 してシャッター半押し状態か 連写中であれば、追随してく れるので安心。はじめから 複雑に動き回るシーンのとき は [トラッキング:ワイド] を使おう。

撮影モード:シャッタースピード優先 絞り値: F6.3 シャッター速度:1/1000秒 露出補正: ±0

ISO感度: AUTO (250) ホワイトバランス:太陽光 焦点距離:600mm



「コンティニュアンスAF] にする

Fnボタンを押して [フォーカスモード] > [AF-C] を 選ぶ。あらかじめこの設定にしておかないと、「トラッ キング〕は選択できない。



Fnボタンを押して[フォーカスエリア] >[トラッキング: ワイド〕を選ぶ。

連続撮影中はズームを固定して撮ろう

列車のように動きが予測できる被写体を撮るときは、最終的に撮りたい構図 (画角と焦点距離) を決めておき、遠目からトラッキングAFで追随しながら、ここぞという位置で連続撮影を行え ばベストショットの幅が広がる。遠目から小さい被写体を捉えるのには「トラッキング:拡張ス ポット〕を使い、電車の来る位置に設定しておけば簡単にピントが合わせられる。





撮影モード:シャッタースピード優先 絞り値:F5.6 シャッター速度:1/500秒 露出補正:-0.3 ISO感度: AUTO (100) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離:200mm

ONE POINT

AF被写体追従感度の設定

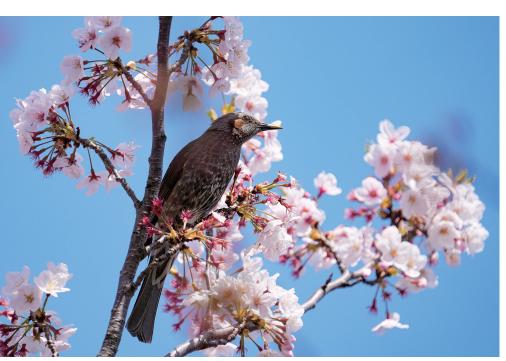
画面左側の路面電車を追従撮影 中に右側の電車が向かってきた。 このようなシーンで追従中の電 車にピントを合わせ続けたいとき は [1(粘る)] に設定。右側に向 かってくる電車に乗り換えたいと きには[5(敏感)]を選ぶとよい。



撮影モード: シャッタースピード優先 絞り値: F2.8 シャッター速度: 1/250秒 露出補正: ±0 ISO感度:AUTO (320) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離: 200mm

進化した瞳AFとサイレント 撮影で野生動物を捉える

リアルタイム瞳AFが「鳥」にも対応して、難しく失敗しがちだった撮影がスムーズに。愛らしい決定的 瞬間が撮れる。電子シャッターを用いたサイレント撮影機能を使えば、鳥を驚かさずに撮れる。



撮影モード: 絞り優先 絞り値: F6.3 シャッター速度: 1/1000秒 露出補正: +0.7 ISO感度: AUTO (320) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離:600mm

野鳥と花を組み合わせて撮る

満開の桜の枝にとまるヒヨドリを望遠レンズで撮影。カモメやトンビが飛んでいるシーンは フォーカスエリアは [トラッキング:ワイド/ゾーン] が便利だが、小柄な鳥が花と紛れている ときは[トラッキング:拡張スポット]を使おう。この写真のように手前に花がある(前ボケになっ ている)ときでも、隙間から鳥の顔あたりにフォーカスエリアを置くことができて、より速く瞳 にピントが合わせられる。いままでは難しく失敗していたシーンも、簡単に撮れるようになった ので是非チャレンジしてみよう。

₲顏/瞳検出対象 人物 動物 0鳥 ₩ENU 🗢

[顔/瞳検出対象] を

[鳥] にする

「MENU」から「フォーカス] > 「顔/瞳AF] > 「顔/瞳検 出対象]>[鳥]を選ぶ。

ONE POINT

☆設定

サイレント撮影の注意点

レンズ駆動音に注意しよう。ソニー純正 のほとんどのFEレンズの駆動モーター音 は小さいが、屋内の部屋やホールなど静 かな場所では、一部のレンズでモーター 音が気になることもある。静音で撮影を 行う場面ではレンズ選びと同時にカメラ やレンズを消音カバー (ケース) やタオル などで覆うなど、静音対策も大事だ。



Fnボタンから「フォーカスエリア」を選択し、「トラッキ ング:拡張スポット]を選ぶ。このとき、あらかじめ[フォー カスモード] は「コンティニュアスAF」にしておこう。

☆ 設定 サイレントモード設定



「MENU」から「撮影] > 「シャッター/サイレント] > 「サ イレントモード設定] > [入] を選ぶ。このとき[電子音] が[入]になっていても[切]に自動で変更されるので、わ ざわざ設定を変える必要はない。



撮影モード: 絞り優先 絞り値: F2.8 シャッター速度: 1/125秒 露出補正: ±0 ISO感度: AUTO (2500) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離: 200mm

無音シャッターなら 近づいて撮れる

望遠レンズを使っていたが、 よりアップに撮りたいので目 いっぱい近づき、シャッター 音で鳩が逃げないように「サ イレントモード を使い撮影。 眠いのかウトウトする可愛い 様子を捉えることができた。

10 ピント拡大で小さな被写体 も正確にピント合わせ

ピント拡大は、画面の一部分を拡大表示してピント合わせが行える機能。MFやDMFだけでなくAFに 対応している。マクロ撮影をはじめ、風景や小さな被写体に正確にピントを合わせるときに役立つ。



撮影モード: 絞り優先 絞り値: F1.8 シャッター速度: 1/3200秒 露出補正: ±0 ISO感度: AUTO (100) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離:135mm

小さな被写体はピント拡大で合わせる

チューリップ畑の中に咲く一輪の小さな花にピントを合わせて撮影。小さな花が風で揺れてい たので、三脚でカメラを固定して、ピント拡大機能とピーキング表示機能を使って、花のしべ 部分に確実にピントを合わせた。ピント拡大機能には、MFやDMF撮影に重きを置いた[MF 時自動ピント拡大〕と、AF撮影が可能な「ピント拡大」がある。ピーキング表示機能を使うと、 シビアなピント合わせや被写界深度を意識した撮影ができ、撮影者の意図を反映したボケ表 現が追及できる。



☆ 設定 MF時自動ピント拡大

[MENU] から [フォーカス] > [ピント補助] > [MF時 自動ピント拡大]を「入]にする。さらに「ピント補助] > [ピント拡大時間] > [無制限] に設定。



MFまたはDMFで、レンズのフォーカスリングを回して、 画面を拡大表示してピントを調整する。マルチセレクター の中央を押すと拡大サイズが変更されて、上/下/左/右に 動かすと拡大位置が移動できる。

ピント拡大とピント拡大中のAF

[MENU] から [フォーカス] > [ピント補助] > [ピント拡大] で、フォーカスモードの設定に 関係なく、かつフォーカスリングを回さずに画像を拡大できる。[ピント拡大中のAF]を[入] に設定しておけば、ピント拡大中にAFでフォーカスエリアのスポットより狭いエリアでピントを 合わせられる。マルチセレクターで拡大・拡大位置の移動が可能。「ピント拡大」は手持ちで AF撮影するときに便利で、「MF時自動ピント拡大」は三脚を使って撮影するときに使いやすい。

ピーキング表示でピントの合っている範囲を確認して撮る

前ボケを作りながら、奥の方はしっかりピントを合わせたかったので、MFでピントを追い込ん で撮影。ピーキング表示でピントが合っている範囲を確認しながら、ピント位置の調整と、くっ きり見せたい範囲にピントが合う絞り値を探りながら露出を設定した。ピーキング表示はカメ ラ位置が横のときは「縦線」が、縦のときは「横線」が認識される。



撮影モード: 絞り優先 絞り値: F10 シャッター速度: 1/160秒 露出補正: +0.7 ISO感度: AUTO (100) ホワイトバランス: 太陽光 焦点距離:135mm

被写体に合わせて ピーキング色を選択



ピーキング色は「ブルー」を選択して見やすく表 示する。色の種類は「レッド」「イエロー」「ブル -] [ホワイト] の4色あるので被写体と被らない 色を選択しよう。

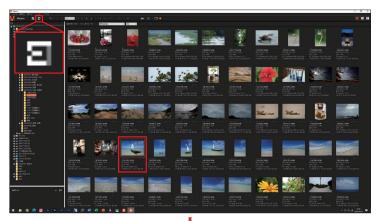
1

RAW現像の流れを知る

01

[Edit機能] を使って現像する

[Edit機能] は画像を調整できるソフトだ。カメラで撮影した画像はこのソフトを使えば現像することができる。基本的にはRAW現象に特化したソフトなので、JPEG 画像を調整したい場合は一部機能が制限されてしまうため注意しよう。



まずは[Viewer機能]で画像を表示する。RAW現像したい画像をダブルクリックするか、画像を選択した状態で画面左上の回([Edit機能]ボタン)をクリックする。



02

調整に便利な機能を使う

[Edit機能] には、画像を調整する際に便利な機能が備わっている。画像の表示方法の切り換えはもちろん、撮影時の情報を確認したり、[表示制御] で白とびや黒つぶれ部分を表示しながら作業することが可能だ。

■撮影時の情報を確認する



■表示制御



動画を撮影する

α7Ⅳは静止画撮影だけでなく、動画撮影にも適したスペックを有している。 進化した動画記録能力によっ

て、4Kの美しさはそのままに、自然で滑らかな映像を記録できる。

動画モードで撮影する

 $\alpha7$ IVの動画は、4Kの高画質・最大6Opで滑らかに撮ることができる。まずはカメ ラがピントを合わせ、露出を自動で設定するおまかせオートで撮ってみよう。慣れた らP/A/S/Mモードを使って思い通りの画作りを試すこともできる。



おまかせオートモード設定時は、設定をカメラ任せになる のでフォーカスエリアなどの設定は変更できない。

動画の撮影をするには、静止画/動画/S&Q切 換ダイヤルの前方ロック解除ボタンを押しなが ら右に回し[動画] モードに切り替える。おま かせオートで撮るにはモードダイヤルをAUTOに 合わせる。赤い円のMOVIEボタンを押すと撮 影を開始し、もう一度押すと停止する。ピント 合わせもカメラ仟せだが、シャッターボタンを 半押しするとピント合わせが行われる。

フォーカス位置の設定方法

おまかせオートモード以外で撮る場合、フォーカスモードはFnメニューから選択でき るが、「コンティニュアスAF」か「マニュアルフォーカス」に限定される。

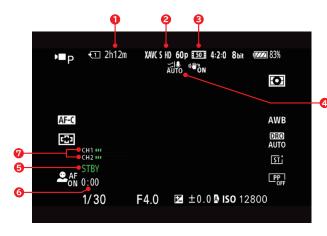
「コンティニュアスAF」で思った部分にうまくピ ントが合わない場合は、「フォーカスエリア」を 変更するかタッチトラッキングを使用するとよい。 動画モード中は「MENU」からは「トラッキング」 を選択できないが、モニター上をタッチすると タッチトラッキングが設定され、中央(●) ボタ ンを押すと解除される。ISO感度、露出補正、 フォーカスエリアは動画撮影中でも設定を変更 できる。



タッチトラッキングは[MENU] から[セットアップ] >[タッ チ操作]で「タッチ操作」を「入」、「タッチパネル/タッチ パッド]を[両方有効]か[タッチパネルのみ]、[撮影時 のタッチ機能]を[タッチトラッキング]に設定しておく。

モニターの表示内容を知る

モニターに表示される内容は、基本的には静止画撮影時と同様だ。しかし動画撮 影特有のものもいくつか出てくるので、ここで解説する。

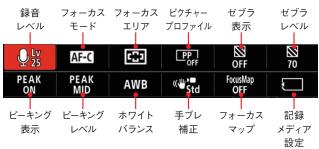




■ファンクション メニューを使う



コントロールホイールト部 にあるFnボタンを押せば、 動画用ファンクションメ ニューが表示される。



音声記録の設定をする

動画特有の要素のひとつが音声だ。[MENU] から[撮影] > [音声記録] で音量 や風音制限の設定ができる。

録音レベル

音声記録



「切」だと無音での撮影になる。

ルに設定する。

風音低減



[入] にすると音声を含めた撮影になる。 コントロールホイールで任意の音声レベ [オート] はカメラが自動的に判断して 風音を低減し、[入] は常に低減する。